

新しい食べ方で京の伝統野菜の復活を

～紫・赤色のカラフルな小カブ品種を育成中～

農林水産技術センター 生物資源研究センター 応用研究部 岩川 秀行

1 はじめに

近年、わが国では一人当たりの野菜消費量が減少傾向の中、人口の減少も重なって野菜全体の消費量が減少している。一方、一人当たりのサラダの購入金額が増加するなど、家庭で簡便に利用でき、調理時間がかからない野菜の需要は拡大している。そこで当センターでは、京都生まれの物語性等を備え、かつ家庭向けの生食や電子レンジ加熱など簡便な調理で食卓をカラフルに彩る野菜として提案するべく、京の伝統野菜である舞鶴カブや聖護院カブを母本とした、根色が赤や紫の小カブ品種の育成を進めている。

本報告では、平成29年に交配し、令和7年の品種育成を目標に選抜・固定を進めている系統を中心に、葉や根の色などの特徴を紹介する。

2 小カブの育成中の形質および目標とする形質

小カブの育種目標は、根色は赤や紫、ヒゲ根が少なく安定した球形、冬季の糖度7度、皮が柔らかく辛味が少ない、みずみずしいこととしている。また、小カブ収穫時の根径（根の太さ）は、6cm～7cm（L規格）を基準として、目標に見合った有望な個体の選抜を進めている（表、図）。令和2年には、育成中の小カブについて市場・流通関係者や調理師・野菜ソムリエなど専門家の意見を聞き、個体選抜の方向性を確認できた。令和4年からは、直売農家での試作を通じて現地での栽培特性や消費者の反応などのリサーチを開始している。

令和4年は、最も世代が進んだ系統*（MTx赤緑、MTx赤濃赤、MTx紫紫）はF₆世代となり、葉や根部の色はほぼ固定されたが、葉長（小さいほど良い）や根形（扁平～球形が良い）のばらつきがまだ大きいため、引き続き選抜を進めていく。令和2年に交配した三元交配系統は、ヒゲ根が少ない特徴が顕著であり有望であるものの、まだF₃世代のため根色を含めて形質にばらつきが大きいので、引き続き選抜を進めていく必要がある。

*：系統名の記号の意味は表中に記載

表1 選抜中の小カブ育成系統の概要

系統名	♀	♂	葉色	根(胚軸)色
平成29年度交配 F ₆				
MTx赤緑	市販赤カブ品種	舞鶴カブ毛じ無し	緑	赤
MTx赤濃赤	市販赤カブ品種	舞鶴カブ毛じ無し	濃い赤	赤
MTx紫紫	市販赤カブ品種	舞鶴カブ毛じ無し	紫	紫
平成30年度交配 F ₅				
SM赤	聖護院大丸カブ	市販赤カブ品種	赤	赤
SM紫	聖護院大丸カブ	市販赤カブ品種	紫	赤
令和2年度三元交配 F ₃				
MTx紫紫W	F ₃ MTx紫紫	市販白カブ品種	紫,緑	紫,白*
MTx赤濃赤W	F ₃ MTx赤濃赤	市販白カブ品種	紫,緑,赤	紫,白,赤*

* 目標の根色を示す個体の選抜を繰り返し、根色の固定を図る。

注)系統名の記号は、M：市販赤カブ品種、Tx：舞鶴カブ毛じ無し、S：聖護院大丸カブ、W：市販白カブ品種を示し、色は根色-葉色を示す。



図1 選抜中の小カブ育成系統の形質
左から MTx 赤濃赤、MTx 紫紫、MTx 赤緑、
MTx 紫紫 W、MTx 赤濃赤 W、SM 紫、SM 赤

3 今後の展開

今後は、育種目標に沿って形質の固定を進めるとともに、現地試験による普及性の確認や、新素材として需要の探索を進めていく。